

# 中小企業景況調査報告書

第152回

平成30年10～12月期 実績

平成31年1～3月期 見通し

平成30年12月

## CONTENTS

### I. 概況

今期の業況・産業別の動向	1～2
1. 業況	3～4
2. 売上高	5
3. 採算(経常利益)	6
4. 資金繰り	7
5. 経営上の問題点	8
6. 従業員の動向	8
7. 新規設備投資	9

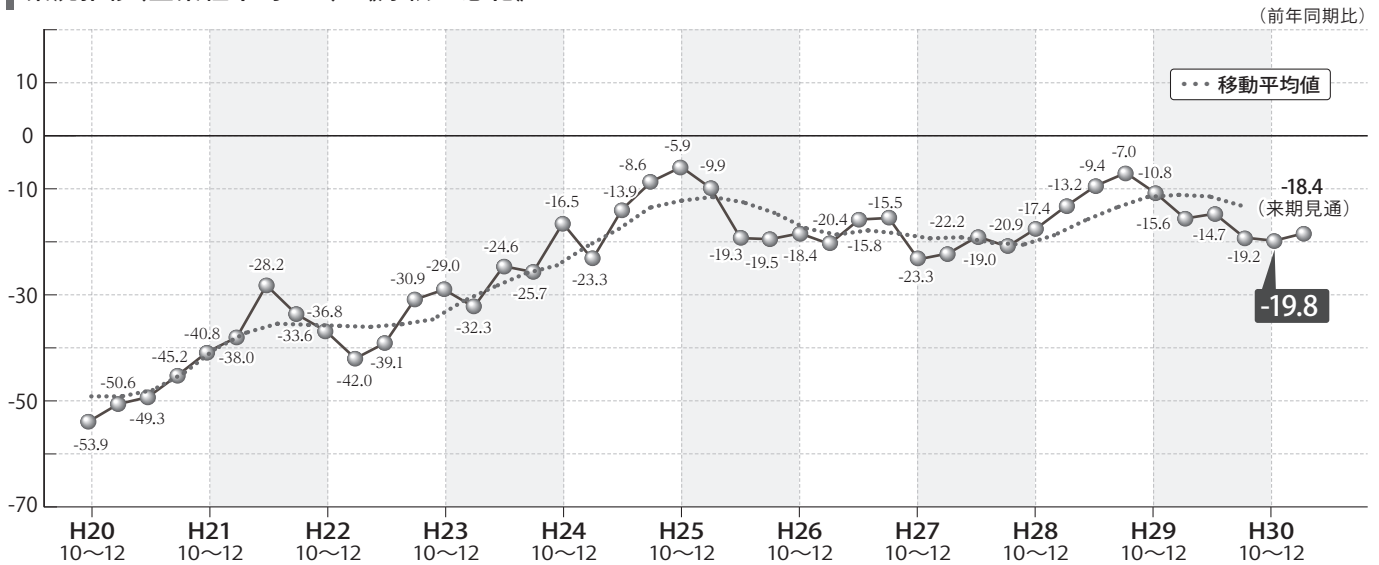
### II. 調査要領 10

1. 調査時点及び調査対象期間
2. 調査対象
3. 調査地域及び調査方法
4. 業種別・規模別回答状況

# I. 概 況

## 業況D・Iはマイナス幅を拡大、来期は回復の動き

### 業況推移(全業種平均D・I)《好転—悪化》



### 今期の業況

今期(10~12月期)の中小企業景況調査における全業種平均D・I値(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、前年同期比(平成29年10月~12月期の水準と比較した今期の業況)では▲19.8と前回調査に比べマイナス幅が拡大した。

また、来期の業況見通しは、▲18.4と縮小する見通しとなっている。

業種別では、前年同期比では、製造(前回▲26.7→今回▲23.6)、建設(前回▲15.7→今回▲7.4)、卸売(前回▲20.0→今回▲21.6)、小売(前回▲18.1→今回▲25.3)、サービス(前回▲15.3→今回▲21.3)と、卸売業・小売業・サービス業の3業種でマイナス幅が拡大した。

今期の経営上の問題点として、「需要の停滞」、「人件費の増加」が大きな要因となっている。また、製造業では「原材料価格の上昇」、建設業・卸売業では「従業員の確保難」、小売業では「消費者ニーズの変化への対応」、サービス業では「利用者ニーズの変化への対応」などの問題点が浮上した。

また、新たに設備投資を実施した企業は平均で17.4%[前回調査時(平成30年7~9月期17.6%)]、業種別では製造[前回21.8%→22.2%]、建設[前回28.4%→20.9%]、卸売[前回10.0%→11.9%]、小売[前回11.1%→13.2%]、サービス[前回16.9%→18.8%]と、製造業・卸売業・小売業・サービス業では実施したと回答する企業が増加した。

### 産業別の動向

#### 製造業 [業況D・I値(前年同期比)▲23.6(来期見通し▲22.6)]

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(平成30年7~9月期)時点からの推移では、前回▲26.7→今回▲23.6と3.1ポイントマイナス幅を縮小した。来期は▲22.6とさらにマイナス幅を縮小する見通し。

#### 主なコメント

- ・災害工事の需要で、一部製品の販売数は比較的高まっているが、工事の受注が減少しており、売上増加は見込めない。(金属製品製造業)
- ・石油化学製品の値上がり人と人件費の高騰により、これまで安定していた原材料価格の値上げ要請が相次いでいる。(帆布製品製造業)
- ・売上単価では減少するも、トータルでは回復傾向。採算面においても、前年並みで推移している。(家具木材製造業)

## 建設業 【業況D・I値(前年同期比)▲7.4(来期見通し▲18.5)】

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(平成30年7~9月期)時点からの推移では、前回▲15.7→今回▲7.4と8.3ポイントマイナス幅を縮小した。来期は▲18.5とマイナス幅を拡大する見通し。

### 主なコメント

- ・北海道胆振東部地震の影響や、恒常的な職人不足の影響により、大幅な工事遅延を招いている。仕事の依頼があっても受けられない状況であり、業績面でも大きな影響を受けている。(内装工事業)
- ・売上、受注数ともに減少している。人材が確保できず、技術者や職人を増やさなければ、業況の好転は期待できず、仕入単価は少しずつ上昇している。(一般土木工事業)
- ・原油の値上がり傾向が顕著であり、国外の動きも不透明であるため、更なる原油の値上がりも考えられる。これ以上の原油の値上がりは当社で使用する主要資材の更なる値上がりと呼び、業績に与える影響は無視できないレベルとなりつつある。(防水工事業)

## 卸売業 【業況D・I値(前年同期比)▲21.6(来期見通し▲20.7)】

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(平成30年7~9月期)時点からの推移では、前回▲20.0→今回▲21.6と1.6ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲20.7とマイナス幅を縮小する見通し。

### 主なコメント

- ・北海道胆振東部地震を境に、観光客数と売上が減少し続けており、回復の見通しが立たない。また、農産物の不作、漁獲量の減少など、道内を取り巻く状況の悪化が、売上の減少に繋がっている。しばらくはこの状況が続くと予想している。(食料・飲料卸売業)
- ・天候不順、地震等により、現場の仕事に遅れが生じた。また、一部業者の人材不足による工事の遅れ、運送費の上昇により売上が伸びず、経費が増加した。(建築材料卸売業)
- ・仕入価格、運賃の高騰を受けているが、販売単価に転嫁しきれない取引先があり、収益率の低下が懸念される。また、需要は年々落ちており、既存取引先だけでは利益確保が難しくなっているが、新規ユーザー開拓は価格面でのリスク等があり、思うように進んでいない。(塗料卸売業)

## 小売業 【業況D・I値(前年同期比)▲25.3(来期見通し▲14.1)】

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(平成30年7~9月期)時点からの推移では、前回▲18.1→今回▲25.3と7.2ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲14.1とマイナス幅を縮小する見通し。

### 主なコメント

- ・初雪が遅かったため、来店客の足も鈍く、アウターウェアが動く季節だが、売上が厳しい。(衣料品販売業)
- ・軽減税率対応のレジを未だ導入していない。資金的なこともあるが、内容に良くわからない部分もあり、対応が後手になっている。(食料品小売業)
- ・新車の代替えサイクルの延長により、車両販売台数は減少したが、車両の長期利用化に伴い、故障修理や、車検整備代金の1台あたり利益が増加した。(自動車小売業)

## サービス業 【業況D・I値(前年同期比)▲21.3(来期見通し▲16.3)】

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(平成30年7~9月期)時点からの推移では、前回▲15.3→今回▲21.3と6.0ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲16.3とマイナス幅を縮小する見通し。

### 主なコメント

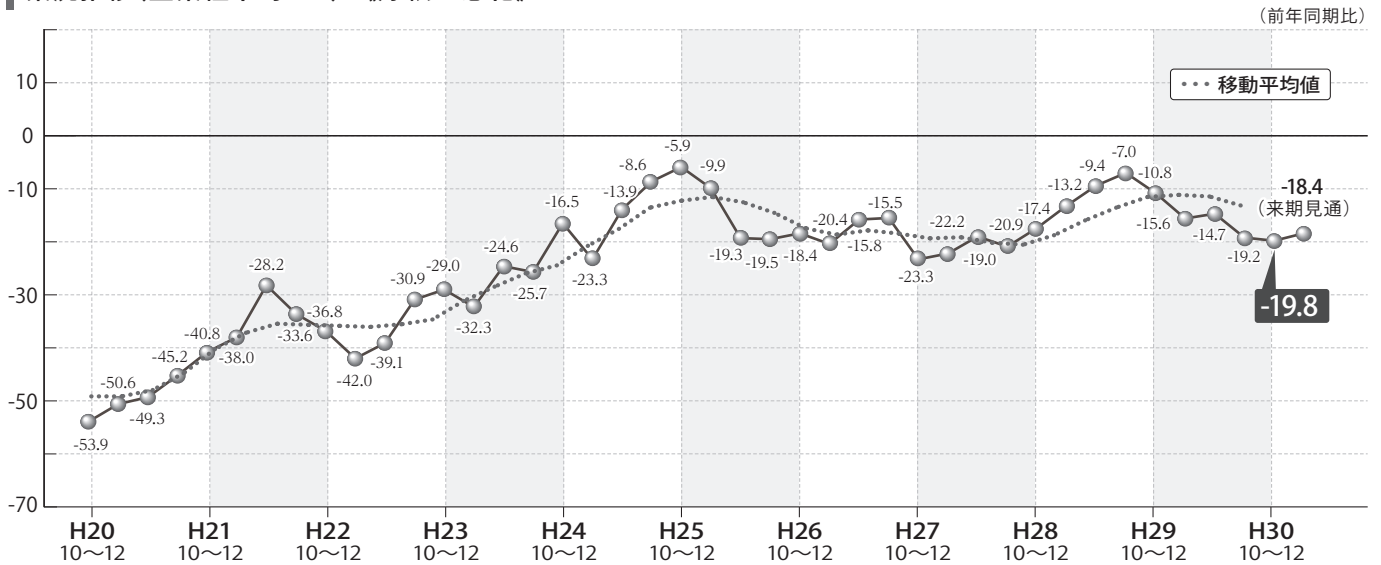
- ・北海道胆振東部地震により、外国人観光客が減少していたが、12月以降回復した。地元の利用客数に大きな変化はなかったが、魚介類の仕入単価上昇が、経営面での深刻な課題である。(飲食業)
- ・灯油代等の価格が、下がってきてはいるものの、昨年同時期よりも高く、売上、採算ともに厳しい状況が続いている。来年には増税となるが、市民の日常に必要な業種のため、新規顧客開拓より、業績の改善・向上に努めていきたい。(クリーニング業)
- ・トラックドライバーの退職者が出たが、補充できていない。運送業から職を変える職員もおり、業界自体が敬遠されているとなると、今後益々人手不足になるのではないかと。(運送業)

# 1. 業況

## 1 今期の業況

**前年同期比** (平成29年10~12月期の水準と比較した今期の業況)

業況推移(全業種平均D・I) 《好転—悪化》

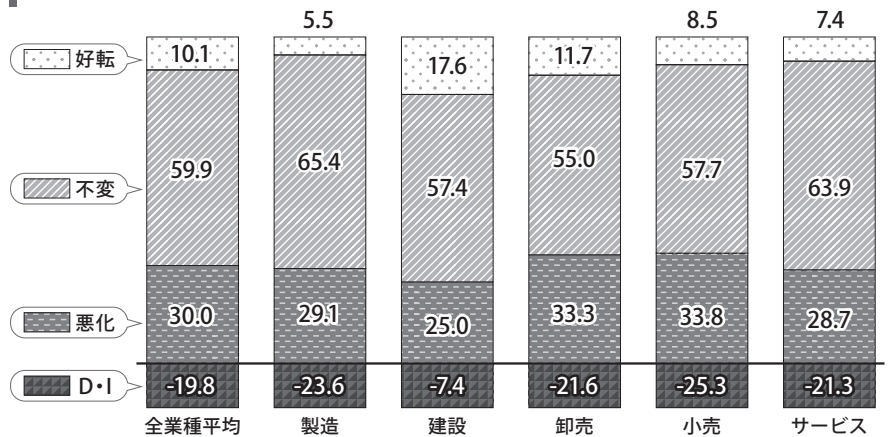


全業種平均でD・I値▲19.8[前回調査時(平成30年7~9月期▲19.2)より0.6ポイントマイナス幅を拡大]

### 業種別D・I値

全業種	前回▲19.2→▲19.8
製造	前回▲26.7→▲23.6
建設	前回▲15.7→▲7.4
卸売	前回▲20.0→▲21.6
小売	前回▲18.1→▲25.3
サービス	前回▲15.3→▲21.3

### 今期の業況(前年同期比)



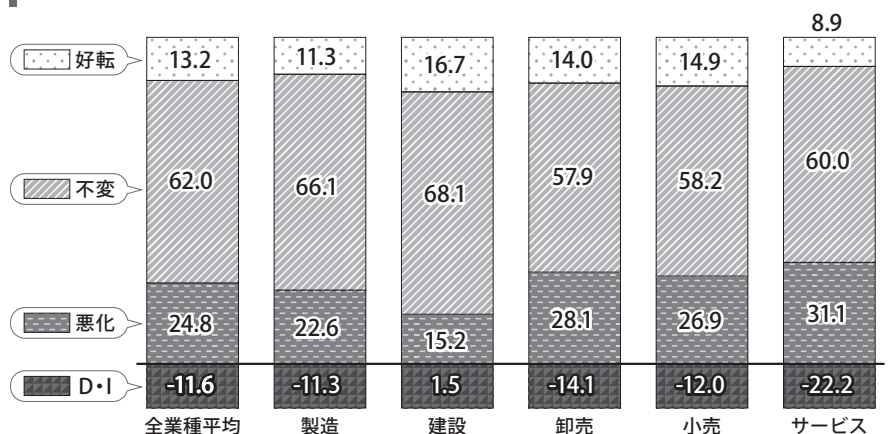
**前期比** (平成30年7~9月期の水準と比較した今期の業況)

全業種平均でD・I値▲11.6[前回調査時(平成30年7~9月期▲4.5)より7.1ポイントマイナス幅を拡大]

### 業種別D・I値

全業種	前回▲4.5→▲11.6
製造	前回▲5.6→▲11.3
建設	前回▲1.5→1.5
卸売	前回▲1.8→▲14.1
小売	前回▲7.8→▲12.0
サービス	前回▲5.9→▲22.2

### 今期の業況(前期比)



## 今期の水準

全業種平均でD・I値▲21.0〔前回調査時(平成30年7~9月期▲18.9)より2.1ポイントマイナス幅を拡大〕

### 業種別D・I値

全業種 前回▲18.9→▲21.0

製造 前回▲31.6→▲21.4

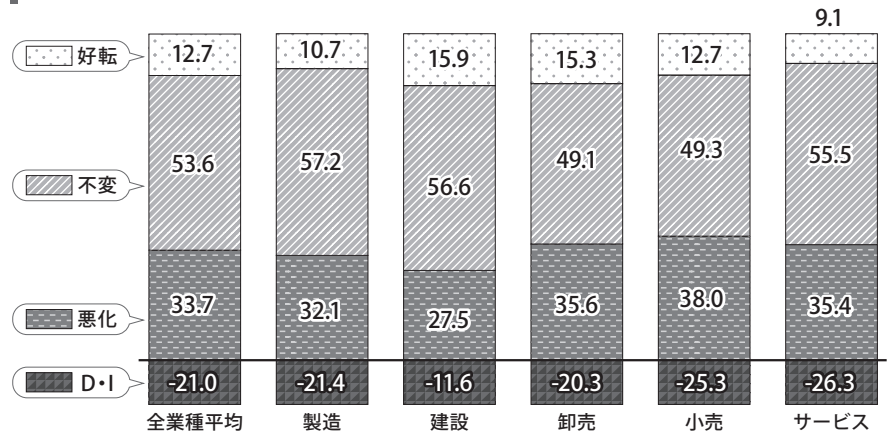
建設 前回▲ 4.3→▲11.6

卸売 前回▲18.0→▲20.3

小売 前回▲24.3→▲25.3

サービス 前回▲16.0→▲26.3

### 今期の業況(今期の水準)



## 2 来期の業況

### 前年同期比 (平成30年1~3月期の水準と比較した来期の見通し)

全業種平均でD・I値▲18.4〔今期の業況(前年同期比▲19.8)より1.4ポイントマイナス幅を縮小する見通し〕

### 業種別D・I値

全業種 今回▲19.8→▲18.4

製造 今回▲23.6→▲22.6

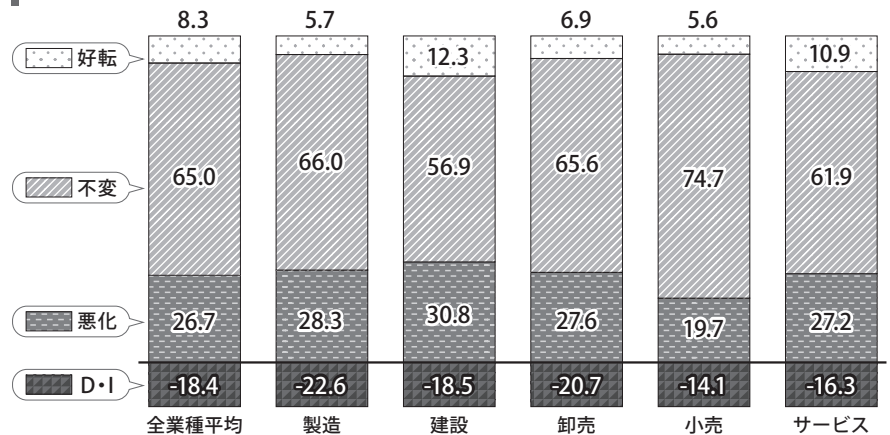
建設 今回▲ 7.4→▲18.5

卸売 今回▲21.6→▲20.7

小売 今回▲25.3→▲14.1

サービス 今回▲21.3→▲16.3

### 来期の業況見通し(前年同期比)



### 今期比 (平成30年10~12月期の水準と比較した来期の見通し)

全業種平均でD・I値▲21.0〔今期の業況(今期水準▲21.0)と横ばいで推移する見通し〕

### 業種別D・I値

全業種 今回▲21.0→▲21.0

製造 今回▲21.4→▲13.2

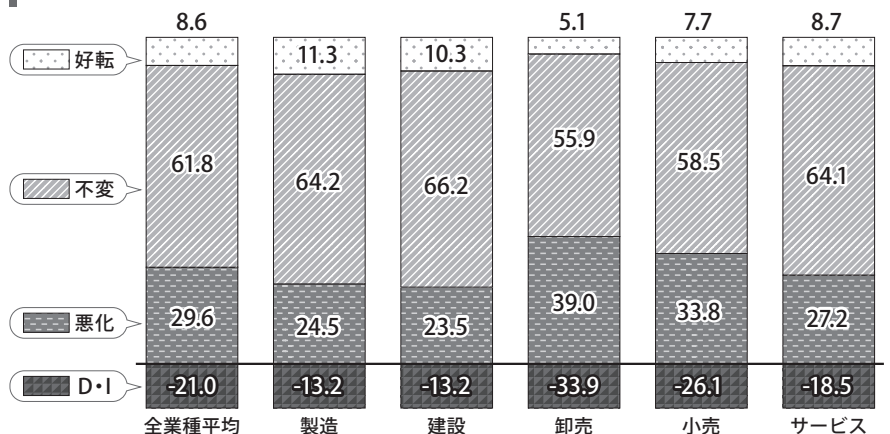
建設 今回▲11.6→▲13.2

卸売 今回▲20.3→▲33.9

小売 今回▲25.3→▲26.1

サービス 今回▲26.3→▲18.5

### 来期の業況見通し(今期比)





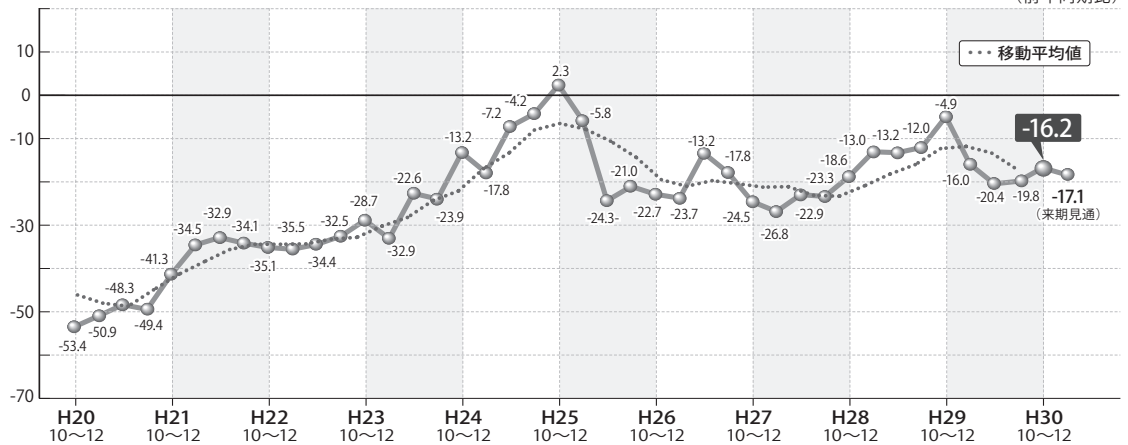
## 2. 売上高

### 1 今期の売上高

**前年同期比** (平成29年10~12月期の水準と比較した今期の売上高)

(前年同期比)

売上高推移  
(全業種平均D・I)  
《増加—減少》

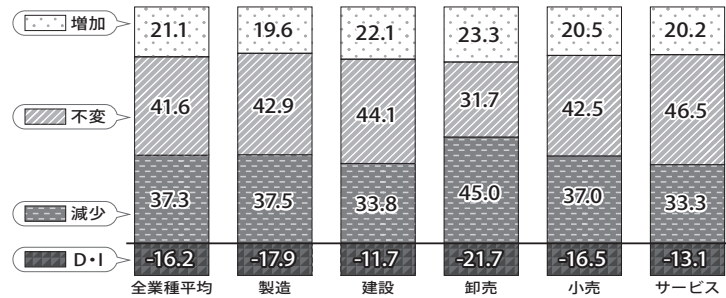


全業種平均でD・I値▲16.2[前回調査時(平成30年7~9月期▲19.8)より3.6ポイントマイナス幅を縮小]

#### 業種別D・I値

全業種	前回▲19.8→▲16.2
製造	前回▲25.0→▲17.9
建設	前回▲17.1→▲11.7
卸売	前回▲24.7→▲21.7
小売	前回▲21.6→▲16.5
サービス	前回▲10.7→▲13.1

#### 今期の売上高(前年同期比)



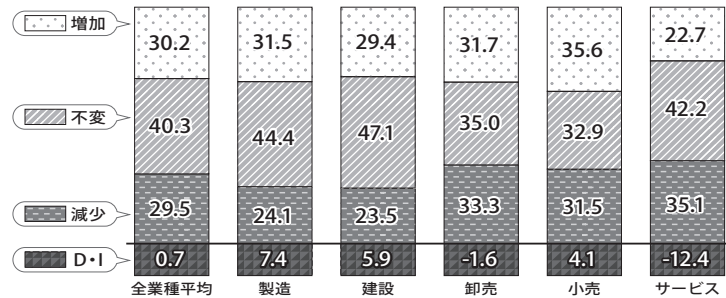
**前期比** (平成30年7~9月期の水準と比較した今期の売上高)

全業種平均でD・I値0.7[前回調査時(平成30年7~9月期▲1.3)より2.0ポイント改善]

#### 業種別D・I値

全業種	前回▲1.3→0.7
製造	前回▲12.7→7.4
建設	前回2.9→5.9
卸売	前回11.4→▲1.6
小売	前回▲8.2→4.1
サービス	前回0.0→▲12.4

#### 今期の売上高(前期比)



### 2 来期の売上高

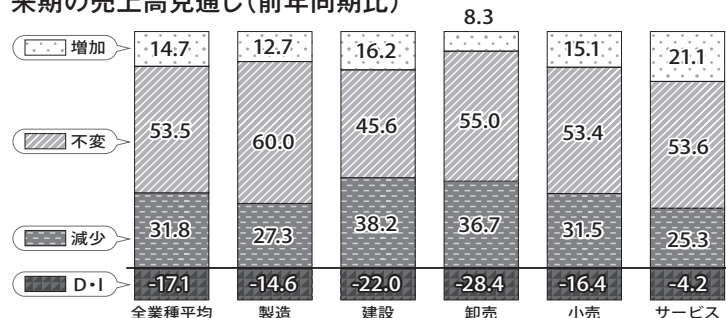
**前年同期比** (平成30年1~3月期の水準と比較した来期の見通し)

全業種平均でD・I値▲17.1[今期の業況(前年同期比▲16.2)より0.9ポイントマイナス幅を拡大する見通し]

#### 業種別D・I値

全業種	今回▲16.2→▲17.1
製造	今回▲17.9→▲14.6
建設	今回▲11.7→▲22.0
卸売	今回▲21.7→▲28.4
小売	今回▲16.5→▲16.4
サービス	今回▲13.1→▲4.2

#### 来期の売上高見通し(前年同期比)

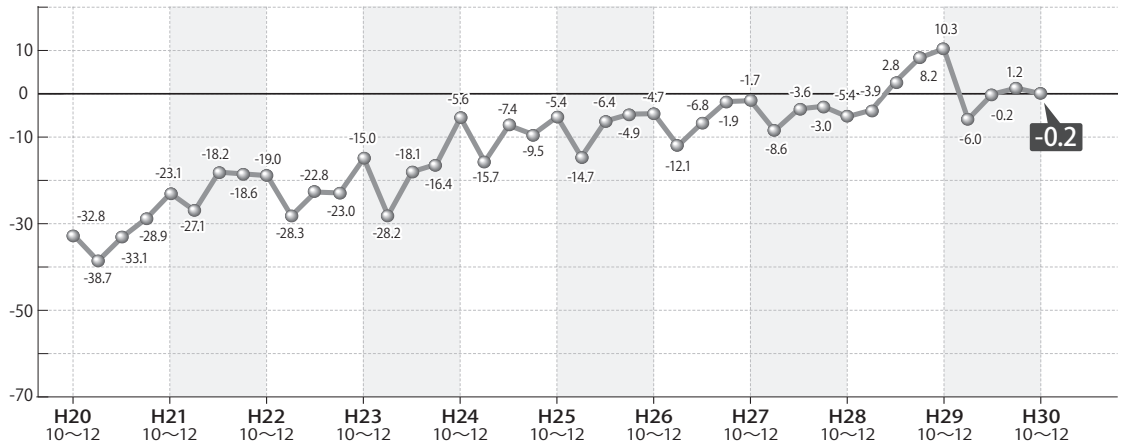


### 3. 採算(経常利益)

#### 1 今期の採算

##### 今期の水準

採算推移  
(全業種平均D・I)  
《黒字—赤字》

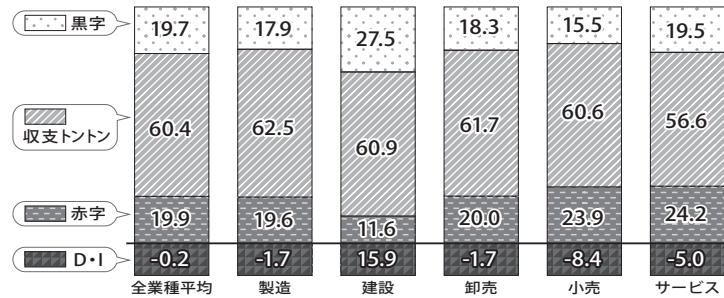


全業種平均でD・I値▲0.2[前回調査時(平成30年7~9月期1.2)より1.4ポイント悪化]

##### 業種別D・I値

全業種	前回	1.2→▲0.2
製造	前回▲	1.8→▲1.7
建設	前回	14.5→▲15.9
卸売	前回	3.4→▲1.7
小売	前回▲	7.0→▲8.4
サービス	前回▲	3.3→▲5.0

##### 今期の採算(今期の水準)



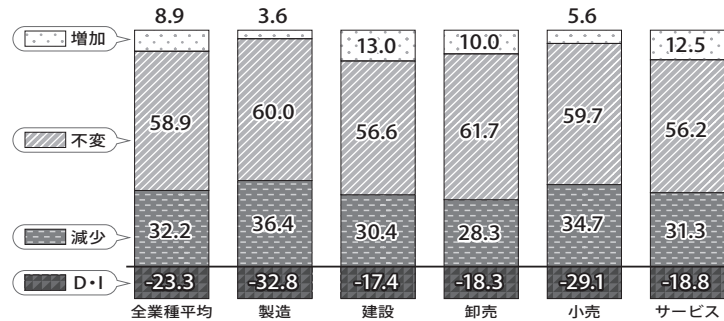
##### 前年同期比 (平成29年10~12月期の水準と比較した今期の採算)

全業種平均でD・I値▲23.3[前回調査時(平成30年7~9月期▲22.2)と1.1ポイントマイナス幅を拡大]

##### 業種別D・I値

全業種	前回▲22.2→▲23.3
製造	前回▲29.8→▲32.8
建設	前回▲15.7→▲17.4
卸売	前回▲27.9→▲18.3
小売	前回▲21.6→▲29.1
サービス	前回▲16.0→▲18.8

##### 今期の採算(前年同期比)



#### 2 来期の採算(経常利益)

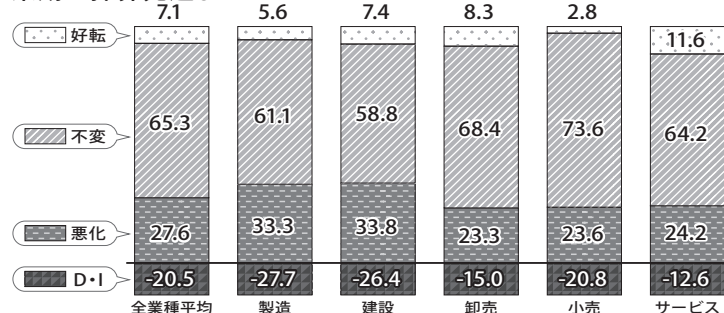
##### 来期

全業種平均でD・I値▲20.5[今期の採算(今期の水準▲0.2)より20.3ポイントマイナス幅を拡大する見通し]

##### 業種別D・I値

全業種	今回▲0.2→▲20.5
製造	今回▲1.7→▲27.7
建設	今回 15.9→▲26.4
卸売	今回▲1.7→▲15.0
小売	今回▲8.4→▲20.8
サービス	今回▲5.0→▲12.6

##### 来期の採算見通し

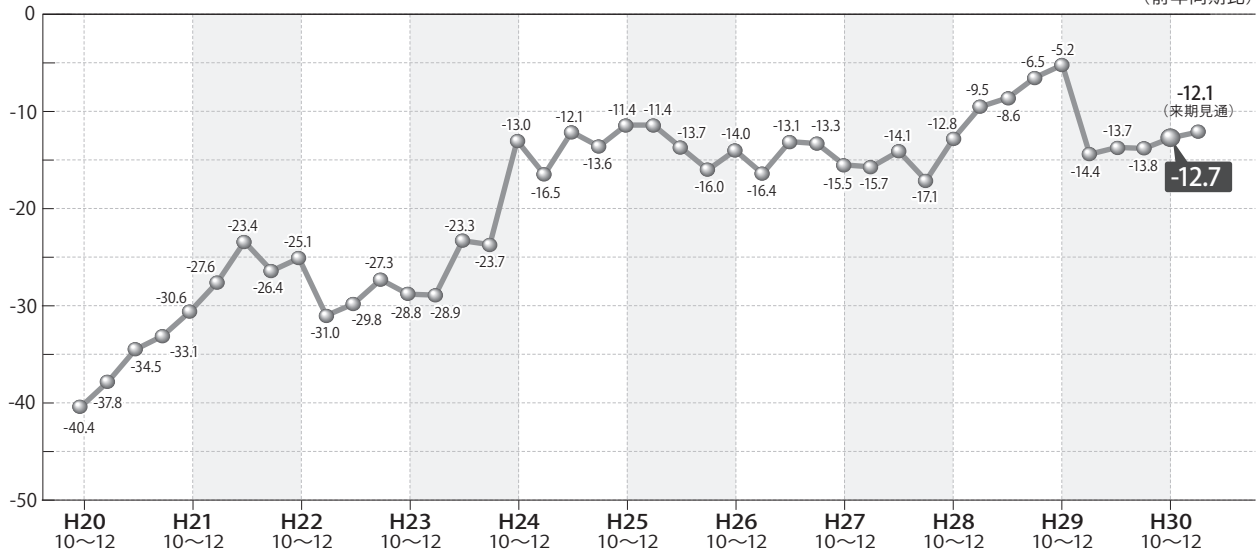


## 4. 資金繰り

### 1 今期の資金繰り

資金繰り推移(全業種平均D・I)《好転—悪化》

(前年同期比)



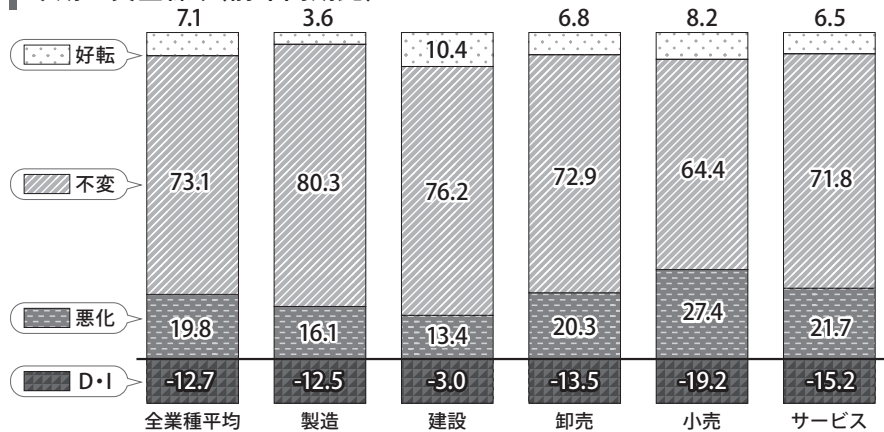
**前年同期比** (平成29年10~12月期の水準と比較した今期の資金繰り)

全業種平均でD・I値▲12.7[前回調査時(平成30年7~9月期▲13.8)より1.1ポイントマイナス幅を縮小]

業種別D・I値

全業種	前回▲13.8→▲12.7
製造	前回▲17.6→▲12.5
建設	前回▲ 5.7→▲ 3.0
卸売	前回▲13.6→▲13.5
小売	前回▲18.3→▲19.2
サービス	前回▲13.5→▲15.2

今期の資金繰り(前年同期比)



### 2 来期の資金繰り

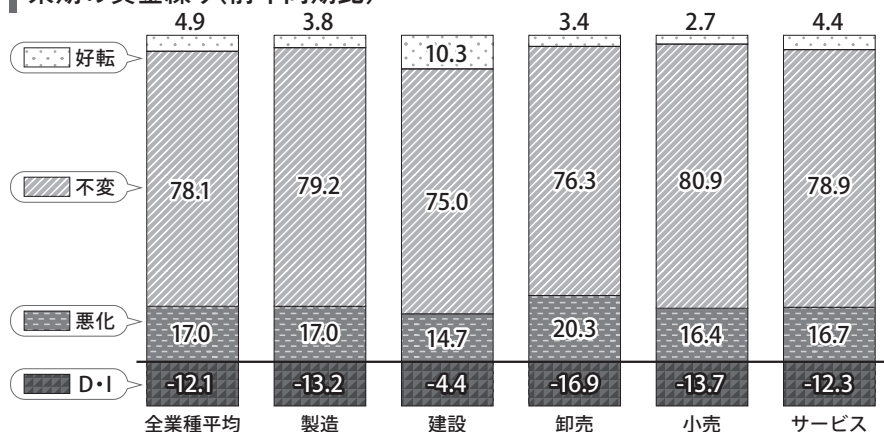
来期前年同期比

全業種平均でD・I値▲12.1[今期の資金繰り(前年同期比▲12.7)より0.6ポイントマイナス幅を縮小する見通し]

業種別D・I値

全業種	今回▲12.7→▲12.1
製造	今回▲12.5→▲13.2
建設	今回▲ 3.0→▲ 4.4
卸売	今回▲13.5→▲16.9
小売	今回▲19.2→▲13.7
サービス	今回▲15.2→▲12.3

来期の資金繰り(前年同期比)

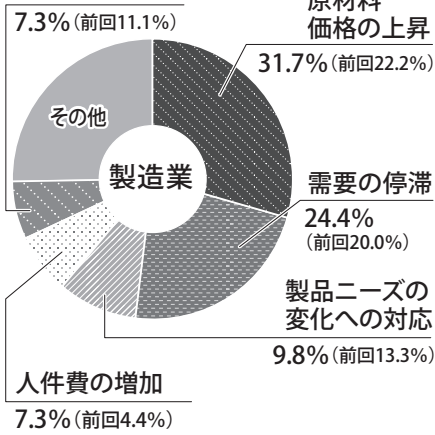




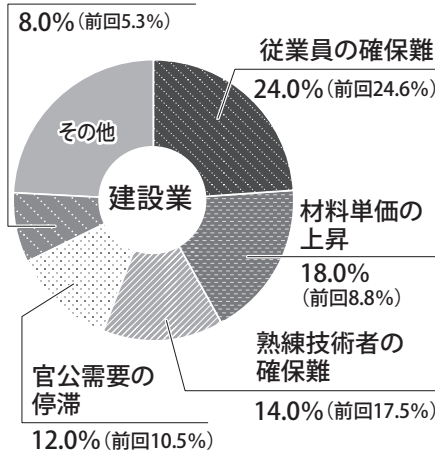
## 5. 経営上の問題点

### 今期の経営上の問題点(上位に挙げられた項目)

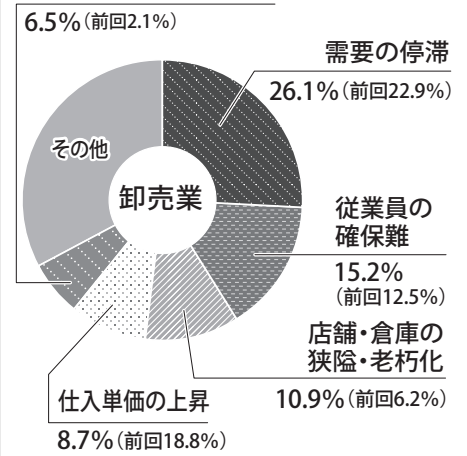
生産設備の不足・老朽化



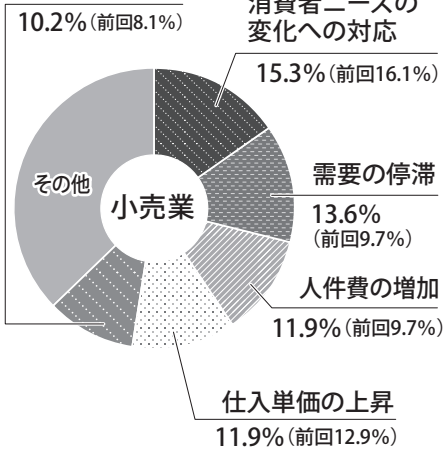
人件費の増加



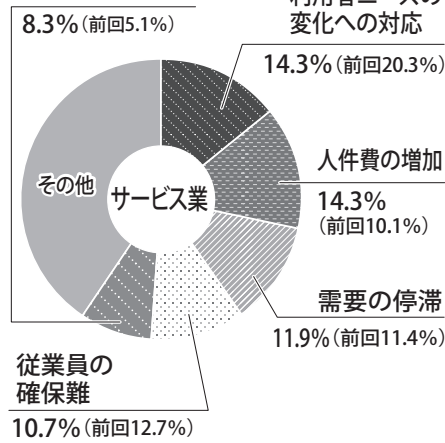
販売単価の低下・上昇難



購買力の他地域への流出



材料等仕入価格の上昇



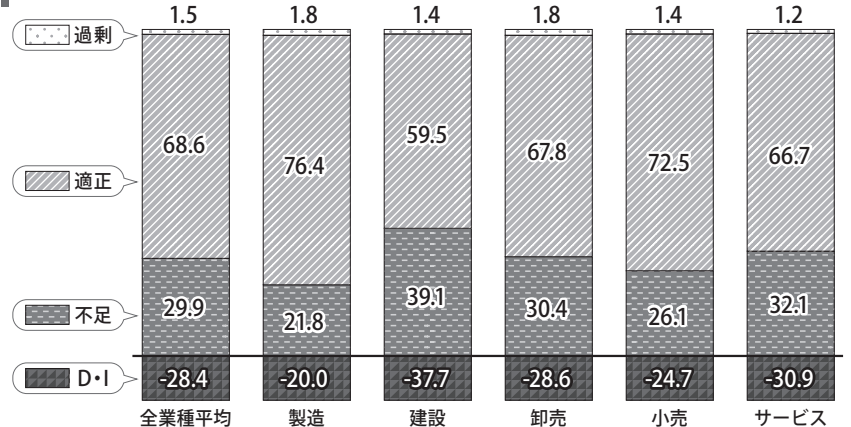
## 6. 従業員の動向

全業種平均でD・I値▲28.4[前回調査時(平成30年7~9月期▲26.1)]と、建設業を除く、4業種で不足感が高まった。

### 業種別D・I値

全業種	前回▲26.1→▲28.4	(適正68.6%)
製造	前回▲17.8→▲20.0	(適正76.4%)
建設	前回▲41.5→▲37.7	(適正59.5%)
卸売	前回▲20.7→▲28.6	(適正67.8%)
小売	前回▲22.4→▲24.7	(適正72.5%)
サービス	前回▲28.4→▲30.9	(適正66.7%)

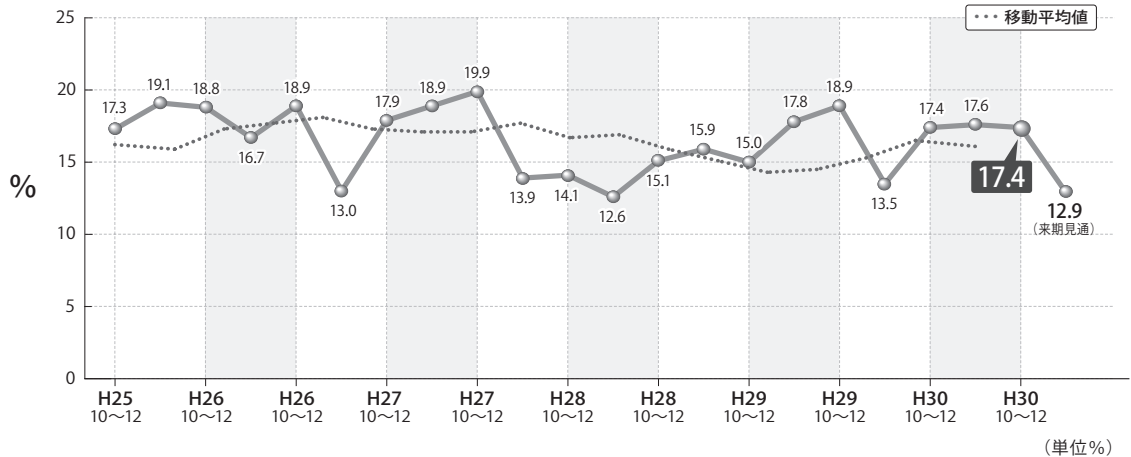
### 今期の従業員の動向



## 7. 新規設備投資

### 今期の新規設備投資

新規設備投資  
実施の動向  
(全業種平均%)



	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全業種平均
実施した	22.2	20.9	11.9	13.2	18.8	17.4
土地	8.3	0.0	14.3	11.1	5.6	7.9
工場建物、建物、店舗	8.3	14.3	28.6	55.6	5.6	22.5
清算・販売・サービス設備、建設機械	41.7	7.1	14.3	44.4	27.8	27.1
車輛運搬具	8.3	42.9	42.9	11.1	27.8	26.6
倉庫・駐車場等の附帯施設	8.3	7.1	0.0	11.1	22.2	9.7
OA機器	25.0	57.1	28.6	55.6	27.8	38.8
厚生施設	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
その他	16.7	0.0	14.3	11.1	5.6	9.5
実施していない	77.8	79.1	88.1	86.8	81.2	82.6

新たに設備投資を実施した企業は平均で**17.4%**〔前回調査時(平成30年7~9月期17.6%)〕となっており、前期に比べ減少した。業種別では製造〔前回21.8%→22.2%〕、建設〔前回28.4%→20.9%〕、卸売〔前回10.0%→11.9%〕、小売〔前回11.1%→13.2%〕、サービス〔前回16.9%→18.8%〕となっている。

### 来期の新規設備投資

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全業種平均
実施する	14.8	16.2	6.8	17.4	9.5	12.9
土地	25.0	0.0	25.0	0.0	11.1	12.2
工場建物、建物、店舗	12.5	27.3	25.0	16.7	11.1	18.5
清算・販売・サービス設備、建設機械	37.5	9.1	25.0	50.0	22.2	28.8
車輛運搬具	0.0	45.5	25.0	41.7	33.3	29.1
倉庫・駐車場等の附帯施設	0.0	0.0	0.0	16.7	44.4	12.2
OA機器	25.0	18.2	50.0	41.7	33.3	33.6
厚生施設	12.5	0.0	0.0	0.0	11.1	4.7
その他	25.0	18.2	0.0	0.0	33.3	15.3
実施しない	85.2	83.8	93.2	82.6	90.5	87.1

来期、新たに設備投資を予定している企業は全業種平均で**12.9%**となっており、今期17.4%と比べ設備投資を実施する企業が減少する見通し。業種別では、製造〔今期22.2%→14.8%〕、建設〔今期20.9%→16.2%〕、卸売〔今期11.9%→6.8%〕、小売〔今期13.2%→17.4%〕、サービス〔今期18.8%→9.5%〕となっている。

## Ⅱ. 調査要領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点 平成30年12月  
(2) 調査対象期間 平成30年10～12月期実績及び平成31年1～3月期の見通し

### 2. 調査対象

#### (1) 中小企業景況調査

「製造業・建設業」については、資本金3億円以下、又は従業員300人以下の企業、「卸売業」については、資本金1億円以下、又は従業員100人以下の企業、「小売業」については、資本金5千万円以下、又は従業員50人以下の企業、「サービス業」については、資本金5千万円以下、又は従業員100人以下の企業を対象とした。

#### (2) 業界動向調査

道内各地商工会議所が地域の中小企業者との相談等により情報収集した特徴的事例。また各業界組合・企業に対し独自に聞き取り調査を実施し、生の声を収集した。

### 3. 調査地域及び調査方法

- 全道商工会議所地域の中小企業に対しアンケート調査を実施(中小企業景況調査)  
全道商工会議所を通じて地域の業界組合等へヒアリング調査を実施(業界動向調査)

### 4. 業種別・規模別回答状況(社数)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
小規模	42	56	41	62	73	274
中規模	14	12	19	11	26	82
合計	56	68	60	73	99	356
構成比(%)	15.7	19.1	16.9	20.5	27.8	100.0

#### 業界動向調査

- ・業界動向ヒアリング先 製造業27社、建設業32社、卸売業14社、  
小売業23社、サービス業37社、合計133社

#### D・Iとは…

本調査結果中の「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、各調査項目についての増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差引いた値(景気動向指数)を示す。

ホームページ：URL <http://www.hokkaido.cci.or.jp/keiki/>